

●国指定 重要文化財

旧札幌農学校演武場 (時計台)

■所在地 札幌市中央区北1条西2丁目
 ■建築年代 明治11年
 ■指定年月日 昭和45年6月17日
 ■管理者 札幌市 TEL231-0838

National Important Cultural Property Clock Tower

A western building equipped with a clock constructed in 1878 as a drill house for the Sapporo Agricultural College

この建物は、札幌農学校の演武場として、初代教頭クラーク博士の帰国後、第2代教頭ホイラー博士の構想に基づき、開拓使工業局の設計・監督により、明治11年10月に完成した。

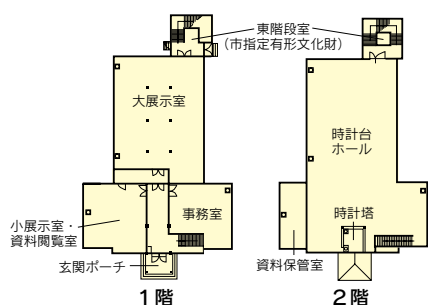
明治14年、時計塔を付設し、同21年1月、札幌

の標準時計とすることが告示された。

建築の意匠は、簡素で装飾の少ない米国の中西部建築様式の影響をうけた実用建築で、わが国では類例の少ない開拓使時代の建築として貴重なものである。



演武場（時計台）



木造2階建バルーン構造 亜鉛引鉄板葺
 下見板張りペイント仕上げ 敷地面積 1,663.53㎡

	重要文化財部分	東階段室部分 (市指定有形文化財)	計
○建築面積	384.49	29.75	414.24
1階床面積	375.32	28.09	403.41
2階床面積	375.32	29.74	405.06
○延床面積	750.64	57.83	808.47



明治12年の演武場（北大北方資料室蔵）

マサチューセッツ農科大学に範をとった札幌農学校は、武芸科（兵学科）設置し、その兵式訓練を行うため、この演武場をつくった。

明治36年7月、農学校は現在の北海道大学の位置に移転し、演武場と旧校地は札幌区に貸与され公会堂として使用された。

明治39年、それらは札幌区の所有になるとともに、建物は現在地に移された。旧位置は、現在の北2条通りの路上と、北2条西2丁目にまたがる一帯であった。

その後、郵便局、教育会および図書館等に利用されたが、昭和36年6月札幌市指定の有形文化財第1号に、つづいて昭和45年6月国指定の重要文化財（時計機械は附指定）となった。

これまでに、大正13年（東階段室付設）、昭和8年（大修理）、同24年（図書館に改修）、同42年（創建時に復原）などの工事が行われた。平成7年1月から同10年9月にかけては時計台保存修理事業として、屋根の葺替え、外壁塗装修理、耐震補強工事等が実施された。



時計機械

この建物には天井がなく、小屋組（屋根を受けるための骨組み）が露出している。屋根のこう配方向に部材（合掌）を約3.5m間隔にかけ、その上部をカラービーム（つなぎ材）で結び、次に軒けたをタイバー（丸鉄棒）で結ぶ。さらに上方のつなぎ材の両端から鉄棒を下げてタイバーを釣っている。これはバルーン構造（間柱構造）にみられる形式で、わが国ではその例が少ない。

時計の機械は、鳩時計と同様の振り子時計で、専門的には時打重錘振子式四面時計と呼ばれ、動力にはおもりを利用している。この仕組みの時計としては、日本で原形のまま正確に作動している最も古い塔時計である。

おもりは、豊平川でとれた玉石を木製の箱に入れたもので、重量は動力用が約50kg、鐘用が約150kgのものを使用している。おもりの巻き上げは人力により、週2回行っている。なお、時計は米国ボストン市ハワード社製である。



2階展示室と小屋組

この建物の実施設計・監督には、安達喜幸を中心とする開拓使工業局営繕課があたった。安達は開拓使を代表する建築家であるばかりでなく、その卓越した技術は、お雇い外国人からも高く評価されていたという。

時計台は、札幌を象徴する建物であり、文学や芸術作品にも、しばしば登場する。有島武郎の「星座」、高階哲夫作詞、作曲の「時計台の鐘」など是有名である。ゆかりの詩に、北原白秋「この道」などがある。